

“羊の自覚” 詩編23編 シリーズ～詩編～

【賛歌。ダビデの詩。】
 主は羊飼ひ、わたしには何も欠けること
 がない。
 主はわたしを青草の原に休ませ憩いの
 水のほとりに伴ひ
 魂を生き返らせてくださる。
 主は御名にふさわしく
 わたしを正しい道に導かれる。
 死の陰の谷を行くときも
 わたしは災いを恐れない。
 あなたがわたしと共にいてくださる。
 あなたの鞭、あなたの杖それがわたしを
 力づける。
 わたしを苦しめる者を前にしても
 あなたはわたしに食卓を整えてくだ
 さる。
 わたしの頭に香油を注ぎ
 わたしの杯を溢れさせてくださる。
 命のある限り
 恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
 主の家にわたしは帰り
 生涯、そこにとどまるであろう。

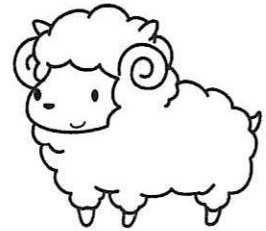
作者ダビデについて

イスラエル国第2代の王様

最初の王サウルは、神様の教えに背いたので、見限られていた
 早くから(10代の頃)次期王に任じられた
 8人兄弟の末っ子で、羊飼いをさせられていた

150の詩編のうち、73が「ダビデの詩」となっている

豎琴の名手であった。豎琴を奏でながらたくさんの歌を作り、歌った



羊の自覚

ダビデは、自分には「主なる神」という羊飼ひが必要だ、と自覚している

- 自分の無力さを認めている
- 自分で手に入れると思わない
- 自分で守っていると思わない
- 主なる神の偉大さを認め、自分に対する愛を感じている
- 主がすべてを与えて下さる
- 主が守って下さっている

<羊の特徴>

- 自分一人では生きていけない
- えさを探すことも、水を見つけることもできない
- 非常に弱い
- 足も遅く、身を守る武器もない
- 毛が伸びるとますます弱い
- 羊飼ひに100%たよっている!

主は人生の羊飼ひ

- 「正しい道に導かれる」:迷いやすい人生で、主の声に従っていれば大丈夫 <導き>
- 「災いを恐れない」:突然何が起こるか分からないけれど、きっと守って下さる <守り>
- 「わたしと共にいて下さる」:目には見えないが、いや見えないからこそ離れずにいて下さる <安心>
- 「あなたの鞭とあなたの杖」:時にははしかれたり、試練を与えられたりするけれど、そのおかげで強い人になれる <教育>
- 「食卓を整えて下さる」:恐れることなく、人生を楽しむことができる <養い>
- 「香油を注ぎ」「杯を溢れさせて」:余裕を持って豊かな人生を送れる <エンターテインメント>

命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う ←こちらから探しに行かなくても良い!

だから

「主の家にわたしは帰り
 生涯(しょうがい)、そこにとどまるであろう。」

あなたには羊の自覚がありますか?



ユダの荒れ野